

地域おこし協力隊通信

地域おこし
協力隊員

奥村 純一

(移住支援担当)



こんにちは奥村です。この原稿を書いております7月末現在は酷暑、さらには空模様の不安定な日々ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

柴崎新町長体制のもと、ウクライナのチャリティコンサートでは、私も同僚の松藤さんと得意分野でお手伝い。

長年写真撮影の仕事に携わっておりますが、イベントなど催しの記録というのは、雰囲気を伝える為や、継続してイベントを行うときは最も大切な要素となります。ポスター・チラシ・ネットなどのメディアでも、しつかりとした写真や映像の要素があるのとのないでは、以降同様の催しをする際の告知などで、音を出さない、お客様の視界を遮らないなど制約があるなか、長年の経験によりベストなアンダーラインで活躍しているギタリスト長岡亮介さんも、イベン

た。そうしたこともあり町報6月号の表紙は私が撮影した写真を使っていたとき、町をあげての地道的支援に一役買いました。

そして5月には、私の企画したイベント「皆野サンデー」ピクニックを日野沢小学校の跡地である「日野沢川ふれあい広場」にて行いました。「笑顔で溢れていた小学校跡地に再び人々の笑顔を」ということで、「ピクニック」を開催。若い方には「ピンとこんなにかもしませんが、1960年代から我が国もマイカー時代へと突入。そして高度経済成長期には欧米で人気のレジャーも流行します。観光地や真夏の海、冬はスキーといった楽しみも盛んになるのですが、通年楽しめることとしてピクニックは大流行。今回はその時代の再現です。

遠くは愛媛県から1963年製のダットサンの家族が参加、私はその時代の再現です。しかし残念なことに、空き家はたくさんあるのに、貸家がないため、皆野町を候補としてくれても成立しません。しかし同じ地域はそうしたことに反応し対応をしております。いち早く行動している地域はそれなりの効果を上げています。そうした地域に遅れを取らず、すべての町民が意識し、行動することがいままであります。そうした地域に遅れを取らず、すべての町民が何よりも必要なことではないかと、私自身も皆野町民のひとりとして考えております。皆野に人々が集まることにより、意識し認知してもらう

ため、そうしたこともあり町報には5,000人を切るという皆野町の人口。実はコロナ以降の生活様式の変化は追い風であります。月一度の出社も都心まで約2時間の皆野はそうしたテレワーク在宅ワークが増えたコロナ以降、都心を離れて暮らす人も増えております。

私が皆野町に来るようになつた4年前から、私と同様に趣味の場所を皆野に持ちたい、移住の前には2拠点で生活してみたいという知人からのリクエストは10件以上あります。

ト趣旨に賛同し弾き語りを行った。その後には5,000人を切るという風でもあります。月一度の出社も都心まで約2時間の皆野はそうした

公的機関の調べでは、20年後には5,000人を切るという風でもあります。月一度の出社も都心まで約2時間の皆野はそうした

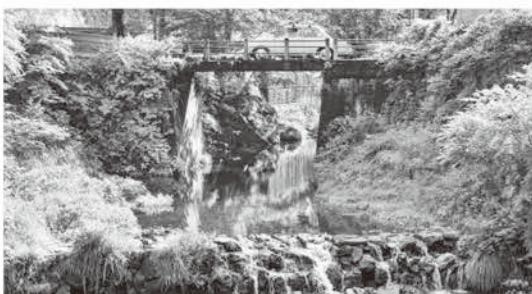
ト趣旨に賛同し弾き語りを行った。その後には5,000人を切るという風でもあります。月一度の出社も都心まで約2時間の皆野はそうした



参加者沢山の笑顔で包まれた
日野沢小学校跡



会場の雰囲気に溶けこむ演奏は
ミルクオアダークのふたり



知り合った仲間たちと再来を約束し
日野沢川をあとにする参加者



ふれあい広場でそれぞれリラックス
した1日を楽しめます